卒業に必要な単位数

国際社会学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2025年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2	「キリスト教概論」[2]	
			2	「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	12		なし
	語学（履修コースによる）		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②16	②2か国語履修コース選択者	
			③22	③インテンシブ・コース選択者	
	PA（パフォーミング・アーツ）		ー		なし
学科専門	基礎	基礎科目	5	「学科の学び」[2]、「国際学への招待」[2]、「導入ゼミ」[1]	なし
		基礎ゼミ	2	「基礎ゼミ」[1]	
	基幹科目		12		なし
	発展科目		18		なし
	専門演習	専門ゼミ	4	「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1、1]、「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1、1]	
		卒業論文等	6	「卒業論文」	
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		語学の履修コースによる： ①51 ②45 ③39	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	上記科目区分ごとに設定された卒業要件単位数を超えて修得した科目（PA科目を含む）、他学科専門科目など				
合　計			124		

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。

・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（pp.94,97「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。

カリキュラムの説明

国際社会学科では、人材養成目的の実現のため、「国際関係」「国際ビジネス・観光」「環境政策・環境経済」「歴史と地域理解」の４つの領域を教育課程における主要領域に設定しています。

専門科目では、学生が専門領域について幅広く学んだ上で、自ら課題を発見、解決していく力を体系的に身に付けられるように、段階的な科目区分を設け、1・2年次は、全学教養教育及び専門科目のうち「国際社会基礎科目」「国際社会基幹科目」を中心に学び、学年の進行と共に専門性の高い「国際社会発展科目」を中心に学びます。

「国際社会基礎科目」は、学科で学ぶ上で基礎となる知識やスキルの修得を目的とし、講義科目と演習科目で構成しています。学科の全学生に共通する内容であることから、全科目が必修科目です。講義科目では、1年次前期に「学科の学び」、１年次後期に「国際学への招待」を基幹教員によるオムニバス形式で開講することで、学科での学修のイメージや学修プランを学生が作り上げることができるようになります。演習科目では、１年次前期に「導入ゼミ」、1年次後期から2年次後期に「基礎ゼミ」を開講し、学科で学べる内容を理解し、大学での学びに必要な知識やスキルを修得することができます。

「国際社会基幹科目」は、学科全体に関する基礎知識を身に付けることを目的として、本学科の主要領域を中心とする内容の入門、概論科目で構成しています。

「国際社会発展科目」は、「国際社会基礎科目」「国際社会基幹科目」の学びをさらに深化させることを目的として、専門性の高い科目で構成しています。主要領域となる「国際関係」「国際ビジネス・観光」「環境政策・環境経済」「歴史と地域理解」で各科目群の内容は次のとおりです。

「国際関係」科目群では、国際関係学やグローバルヒストリーの視点から世界の課題について学び、①国際社会を多角的に理解するための視座と激動する世界を科学的に分析するためのスキル、②世界の課題と自分とのつながりを発見しその解決策を導く力を身に付けることができます。

「国際ビジネス・観光」科目群では、国際ビジネスの最新トレンドや基礎的な理論について学び、①データサイエンスを活用しビジネスをデザインする実践力、②観光産業について地域創生の視点から学び、実務家レベルの基礎的なスキルを身に付けることができます。

「環境政策・環境経済」科目群では、地球規模で広がる環境・社会問題を、身のまわりの事象と結びつけて学び、①知識から行動へとつなげるための力、②企業や行政との対話を通じて地域の環境や消費社会を理解し、地球にやさしい持続可能な観光をビジネスの視点から考えることができる力を身に付けることができます。

「歴史と地域理解」科目群では、各地域の歴史や文化と共に、世界各地の出来事や文化の相互の関係性を学び、グローバルな視点から歴史と地域理解を捉え、世界の複雑なつながりや相互作用を理解した上で、国際社会や文化をより深く把握することができる力を身に付けることができます。

「国際社会専門演習科目」では、3・4年次はいずれかの「専門ゼミ」に所属して、関心のある研究テーマを深め、４年間の学びの集大成として**「卒業論文」**をまとめます。

「海外実習科目」は、海外を実際に訪れて文化や社会を体験し、各地域が抱える課題やそれを克服するための取り組みについて学びます。

◆３つの専攻について

主要領域について学生が自らの興味関心や問題意識に合わせて学ぶ内容を選択し、それらを体系的に学ぶことができるように専攻制を導入しています。各専攻の学びの特徴は次のとおりです。

(1)　国際関係専攻

世界の平和、不平等の是正、多文化共生のために取り組むべき諸課題を学びます。

国際政治経済、国際協力、国際政治論、グローバル・ヒストリーなどの学問分野があります。

グローバル世界が抱える、貧困、紛争、移民・難民、宗教・人種・ジェンダーをめぐる差別、環境問題などの諸課題を解決するための方法を構想できるようになります。

(2)　地球社会・環境専攻

地球規模で広がる環境・社会問題について、自分たちの身の回りの現象と関連づけながら学びます。

また、海外で実施されている環境対策の現場に参加・観察し、環境保全の国際的なトレンドを学びます。環境への配慮という視点から、将来のキャリアを設計できるようになります。

(3)　国際ビジネス・観光専攻

経済学や経営学の基礎的な理論を学習し、国内外におけるビジネスの最新トレンドを学びます。

実務家教員による授業やデータサイエンスの講義を通じて、さまざまな社会データを分析する方法を身につけます。

観光産業について地域創生の視点から学ぶことで、地域経済に貢献する持続可能な観光を考えることができるようになります。

◆取得できる資格について

国際社会学科では、次の資格が取得可能です。学科専門科目と資格関連科目の時間割が重複し、思うように履修できなくなる可能性もありますので、1年次から計画的に履修しましょう。

学科	専攻	教育職員免許状	日本語教員養成講座
国際社会学科	国際関係専攻	中学校教諭一種・社会	40単位コース 30単位コース
	地球社会・環境専攻	高等学校教諭一種・地理歴史	
	国際ビジネス・観光専攻	高等学校教諭一種・公民	

専門科目の履修の進め方

専門科目の履修については、「履修上の注意」(pp.22,28) のほか、カリキュラムマップ、開講科目表の「推奨履修年次」「備考」「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

手続きが必要な科目、履修条件、再履修方法等は以下の指示に従ってください。

1・手続き

各専門科目及び専攻選択にかかわる手続き・登録方法は次のとおりです。

	履修年次	手続き	履修登録
学科の学び	1年次前期	不要	大学による登録
導入ゼミ		不要（クラス指定あり）	
国際学への招待	1年次後期	不要（クラス指定あり）	大学による登録
基礎ゼミ	1年次後期 2年次前期 2年次後期	各学期定められた期日までに共同研究室に申し込むこと 注意：同一担当者のクラスは重複履修不可	大学による登録
基幹科目	1～4年次	各科目の備考・履修方法等を確認すること	各自登録 （一部、大学による登録）
発展科目			
海外実習科目	1～4年次	定められた期日までに国際課に申し込むこと	大学による登録
専攻選択	共同研究室からの掲示（2年次後期）を確認して、手続きをすること		
専門ゼミⅠA・ⅠB	3年次	定められた期日までに共同研究室に申し込むこと	大学による登録
専門ゼミⅡA・ⅡB	4年次		
卒業論文	4年次	不要	大学による登録

卒業に必要な単位数

心理コミュニケーション学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2025年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2	「キリスト教概論」[2]	
			2	「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	12		なし
	語学（履修コースによる）		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②16	②2か国語履修コース選択者	
			③22	③インテンシブ・コース選択者	
	PA（パフォーミング・アーツ）		ー		なし
学科専門	基礎	基礎科目	5	「学科の学び」[2]、「心理コミュニケーションの基礎」[2]、「導入ゼミ」[1]	なし
		基礎ゼミ	2	「基礎ゼミ」[1]	
	基幹科目		12		なし
	発展科目		18		なし
	専門演習	専門ゼミ	4	「専門ゼミＩＡ、ＩＢ」[1、1]、「専門ゼミⅡＡ、ⅡＢ」[1、1]	
		卒業論文等	6	「卒業論文・卒業制作」	
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		語学の履修コースによる： ①51 ②45 ③39	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	上記科目区分ごとに設定された卒業要件単位数を超えて修得した科目（PA科目を含む）、他学科専門科目など				
合　計			124		

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。

・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（pp.94～97「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。

カリキュラムの説明

心理コミュニケーション学科では、人材養成目的の実現のため、「心理」「メディア」「共生コミュニケーター」の3つの領域を教育課程における主要領域に設定しています。

専門科目は、学生が専門領域について幅広く学んだ上で、自ら課題を発見、解決していく力を体系的に身に付けられるように、段階的な科目区分を設け、1･2年次は、全学教養教育及び専門科目のうち「心理コミュニケーション基礎科目」「心理コミュニケーション基幹科目」を中心に学び、学年の進行と共に専門性の高い「心理コミュニケーション発展科目」を中心に学びます。

「心理コミュニケーション基礎科目」は、学科で学ぶ上で基礎となる知識やスキルの修得を目的とし、講義科目と演習科目で構成しています。学科の全学生に共通する内容であることから、全科目が必修科目です。講義科目では、1年次前期に「学科の学び」を基幹教員によるオムニバス形式として開講することで、学科での学修のイメージや学修プランを学生が作り上げることができるようになります。また、1・2年次を履修対象とする「心理コミュニケーションの基礎」では、本学科のすべての領域に共通する心理コミュニケーションについて、各領域の視点からアプローチする方法について概説します。演習科目では、1年次前期に「導入ゼミ」、1年次後期から2年次前期に「基礎ゼミ」を開講し、学科で学べる内容を理解し、大学での学びに必要な知識やスキルを修得することができます。

「心理コミュニケーション基幹科目」は、学科全体に関する基礎知識を身に付けることを目的として、本学科の主要領域を中心とする内容に関する入門・概論科目、および基礎的な調査方法に関する科目で構成しています。

「心理コミュニケーション発展科目」は、「心理コミュニケーション基礎科目」「心理コミュニケーション基幹科目」の学びをさらに深化させることを目的として、専門性の高い科目で構成しています。主要領域となる「心理」「メディア」「共生コミュニケーター」各科目群の内容は次のとおりです。

「心理」科目群では、こころを理解するために心理学のさまざまな分野について学び、①「心理学概論」をはじめとした科目を通して心理学的にこころを捉える視点、②行動やことばをデータとして収集・分析・考察する力、③「心理的アセスメント」をはじめとした科目を通して、現代社会におけるこころの問題・困り感への支援方法を身に付けることができます。

「メディア」科目群では、さまざまなメディアを活用し、現代社会を批判的に考察する方法について学び、①「メディア分析」をはじめとした科目を通してメディア研究の基礎を学び、現代社会の問題点を理解する力、②多様性のある社会実現に向け、実践的なコンテンツ制作に役立つ専門的なスキル、③ジャーナリズムの基礎を学び、様々な媒体において情報をアウトプットする力を身に付けることができます。

「共生コミュニケーター」科目群では、多様なルーツを持つ人々が共に生きられる社会について学び、①多文化共生社会をつくるために必要な視点、②文化や背景の違いを越えて他者を支援するための具体的な方法、③「日本語学習のコースデザイン」や「コミュニティ通訳論」などの科目を通して多様な人々をつなぐツールとしての日本語教育をはじめ、多文化・多言語社会をコーディネートする力を身に付けることができます。

「心理コミュニケーション専門演習科目」は、3・4年次はいずれかの「専門ゼミ」に所属して、関係のある研究テーマを深め、４年間の学びの集大成として**「卒業論文・卒業制作」**をまとめます。

◆３つの専攻について

主要領域について学生が自らの興味関心や問題意識に合わせて学ぶ内容を選択し、それらを体系的に学ぶことができるように専攻制を導入しています。各専攻の学びの特徴は次のとおりです。

(1)　心理専攻

心理学・言語学、社会学など複数分野で人の行動の背景・心の問題や、心理学と結びついた言語（異文化）コミュニケーションを学びます。心理学関連の資格取得（認定心理士 / 公認心理師の学部科目）が可能です。

(2)　メディア専攻

人と人をつなぐ役割を担う、多様なメディアを活用した「心」の伝え方を学びます。コンテンツ、アプリケーション、コンピュータ音楽制作、映画研究、調査、取材、出版、編集デザイン、分析のスキル修得が可能です。

(3)　共生コミュニケーター専攻

国際社会学、ジェンダー論、多文化共生論、日本語教育学などの理論とフィールドワークにより、多文化・多言語社会をコーディネートするスキル、コミュニティ通訳として現場で活躍するためのスキルも修得できます。

◆取得できる資格について

心理コミュニケーション学科では、次の資格が取得可能です。学科専門科目と資格関連科目の時間割が重複し、思うように履修できなくなる可能性もありますので、1年次から計画的に履修しましょう。

専攻	公認心理師（p. 119）	社会調査士（p. 120）	認定心理士（p. 121）	日本語教員養成講座
心理専攻	○	○	○	40単位コース 30単位コース
メディア専攻	–	○	–	
共生コミュニケーター専攻	–	○	–	

卒業に必要な単位数

文化表現学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2	「キリスト教概論」[2]	
			2	「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	12		なし
	語学（履修コースによる）		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②16	②2か国語履修コース選択者	
			③22	③インテンシブ・コース選択者	
	PA（パフォーミング・アーツ）		―		なし
学科専門	基礎	基礎科目	9	「学科の学び」[2]、「欧米文化表現入門」[2]、「日本・アジア文化表現入門」[2]、「音楽・身体表現入門」[2]、「導入ゼミ」[1]	
		基礎ゼミ	2	「基礎ゼミ」[1]	
	基幹科目		12		なし
	発展科目		18		なし
	専門演習	専門ゼミ	4	「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1、1]、「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1、1]	
		卒業論文等	6	「卒業研究」	
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		語学の履修コースによる： ①47 ②41 ③35	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	上記科目区分ごとに設定された卒業要件単位数を超えて修得した科目（PA科目を含む）、他学科専門科目など				
合　計			124		

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。

・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（pp.94～97「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。

カリキュラムの説明

文化表現学科では、人材養成目的の実現のため、「ヨーロッパ・アメリカ」「日本・アジア」「音楽・身体表現」の3つの領域を教育課程における主要領域に設定しています。

専門科目は、学生が専門領域について幅広く学んだ上で、自ら課題を発見、解決していく力を体系的に身に付けられるように、段階的な科目区分を設け、1・2年次は、全学教養教育及び専門科目のうち「文化表現基礎科目」「文化表現基幹科目」を中心に学び、学年の進行と共に専門性の高い「文化表現発展科目」を中心に学びます。

「文化表現基礎科目」は、学科で学ぶ上で基礎となる知識やスキルの修得を目的とし、講義科目と演習科目で構成しています。学科の全学生に共通する内容であることから、全科目が必修科目（一部選択必修科目）です。講義科目では、1年次前期に「学科の学び」を基幹教員によるオムニバス形式で開講することで、学科での学修のイメージや学修プランを学生が作り上げることができるようになります。また、1・2年次を履修対象とする「欧米文化表現入門」「日本・アジア文化表現入門」「音楽・身体表現入門」では、文化表現について、本学科の各主要領域の視点からアプローチする方法について概説します。演習科目では、１年次前期に「導入ゼミ」、1年次後期から2年次後期に「基礎ゼミ」を開講し、学科で学べる内容を理解し、大学での学びに必要な知識やスキルを修得することができます。

「文化表現基幹科目」は、学科全体に関する基礎知識を身に付けることを目的として、本学科の主要領域を中心とする内容の入門、概論科目で構成しています。

「文化表現発展科目」は、「文化表現基礎科目」「文化表現基幹科目」の学びをさらに深化させることを目的として、専門性の高い科目で構成しています。主要領域となる「ヨーロッパ・アメリカ」「日本・アジア」「音楽・身体表現」各科目群の内容は次のとおりです。

「ヨーロッパ・アメリカ」科目群では、欧米の言語・文学・芸術・歴史・社会・宗教・時事について横断的に学び、①生活・遊びからビジネス・教育まで、さまざまな場において円滑な文化交流を実現・支援する、②文学・芸術・文化・エンターテインメントの背後にある人間心理・利害関係・社会の深層を理解する、③自然な意思疎通ができる英語力を身に付けることができます。

「日本・アジア」科目群では、文化の発信地としての東アジアの「今」を深く学び、①語学・文学や社会学の視点から今起こっていることの社会的な背景を理解する、②作品や日常で使われている言葉などを研究し、自らの問題を発見し解決する、③東アジアで読まれてきたさまざまな文献資料と向き合い、高度な読解力を身に付けることができます。

「音楽・身体表現」科目群では、音楽・身体表現について理論と実践を組み合わせて学び、①世界各国のポップスからクラシックまで様々な音楽を理解し、実演するための力、②映像とサウンドデザイン、音楽とマーケティングなど新しい音の文化を創造・実践する力、③世界の舞踊・身体表現を概観しながら、自己表現を高める力を身に付けることができます。

「文化表現専門演習科目」では、3・4年次はいずれかの「専門ゼミ」に所属して、関心のある研究テーマを深め、４年間の学びの集大成として**「卒業研究」**をまとめます。

◆３つの専攻について

主要領域について学生が自らの興味関心や問題意識に合わせて学ぶ内容を選択し、それらを体系的に学ぶことができるように専攻制を導入しています。各専攻の学びの特徴は次のとおりです。

(1)　ヨーロッパ・アメリカ専攻

イギリス・アメリカ・フランス・スペイン語圏の言語・文学・芸術・デザイン・歴史・社会・宗教・時事問題について横断的に学びます。英語力向上のための科目群、中学校・高校教員免許（英語）を取得するための科目群もあります。

(2)　日本・アジア専攻

日本の言葉の歴史を知り、文学・音楽・アニメなどを社会的視点から分析します。また、中国・韓国の文化や日中・日韓の文化交流について学びます。中学校・高校教員免許（国語）を取得するための科目群もあります。

(3)　音楽・身体表現専攻

クラシックからポピュラーまでの音楽、作・編曲、演奏や、世界のダンス、サウンドデザインやコンテンツ制作、音楽ビジネスなどを理論と実践の両面から学びます。国内外の社会において音楽のもつ意味、音楽が果たす役割に関する広い視野と深い理解を身につけることができます。

◆取得できる資格について

文化表現学科では、次の資格が取得可能です。学科専門科目と資格関連科目の時間割が重複し、思うように履修できなくなる可能性もありますので、1年次から計画的に履修しましょう。

専攻	教育職員免許状	日本語教員養成講座
ヨーロッパ・アメリカ専攻	中学校教諭一種・英語 高等学校教諭一種・英語 中学校教諭一種・国語 高等学校教諭一種・国語	40単位コース 30単位コース
日本・アジア専攻		
音楽・身体表現専攻		

編入学者の卒業に必要な単位数

編入学者の卒業の条件は、次のとおりです。編入学年及び入学年度によってカリキュラム及び条件が異なりますので、自分が該当する1つの表だけを確認してください。科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に記載されています。

2年次編入学者	編入学後3年の間に以下の表に定める科目・単位を含む94単位を修得すること
3年次編入学者	編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得すること

2年次編入学者　＜全学科共通＞

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	CLA コア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論」[2] 「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	2		なし
	語学		6		32
	PA（パフォーミング・アーツ）		—		なし
学科専門	基礎	基礎科目	2	【国際社会学科】 「国際学への招待」[2] 【心理コミュニケーション学科】 「心理コミュニケーションの基礎」[2] 【文化表現学科】 「欧米文化表現入門」[2]、「日本・アジア文化表現入門」[2]、「音楽・身体表現入門」[2] のいずれか1科目	なし
		基礎ゼミ	1	「基礎ゼミ」[1]	
	基幹科目		8		なし
	発展科目		18		なし
	専門演習	専門ゼミ	4	「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1、1]、「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1、1]	
		卒業論文等	6	「卒業論文」、「卒業論文・卒業制作」、「卒業研究」[6]	
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		43	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	上記科目区分ごとに設定された卒業要件単位数を超えて修得した科目（PA 科目を含む）、他学科専門科目など				
合　計			94		

3年次編入学者　＜全学科共通＞					
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	CLA コア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論」[2] 「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	ー		なし
	語学		ー		32
	PA（パフォーミング・アーツ）		ー		なし
学科専門	基礎	基礎科目	ー		
		基礎ゼミ	ー		
	基幹科目		2		なし
	発展科目		4		なし
	専門演習	専門ゼミ	4	「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1、1]、「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1、1]	
		卒業論文等	6	「卒業論文」、「卒業論文・卒業制作」、「卒業研究」[6]	
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		42	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	上記科目区分ごとに設定された卒業要件単位数を超えて修得した科目（PA 科目を含む）、他学科専門科目など				
合計			62		

キリスト教関連科目　【3 年次編入学者のみ】

3年次編入学者のみ、「キリスト教概論」「キリスト教学」に代えて、次表の「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。

「キリスト教関連科目」

科目種別	科目名
国際社会学科専門科目	現代宗教論
心理コミュニケーション学科専門科目	キリスト教音楽概論

卒業に必要な単位数

英語英米文学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2024年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論」[2]	
			2		「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学 （履修コースによる）		①22		①英語インテンシブ・コース選択者	32
			②20		②2か国語履修コース選択者	
学科専門	選択必修	Ⅰ	2	合計 44	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ－A	12		〈各研究入門〉	なし
		Ⅱ－B	6		〈高度な英語科目、「英米文化専門講読」〉	なし
		Ⅲ	20			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	選択				「海外短期研修※5」	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		語学の履修コースによる： ①44 ②46		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、英語英米文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

2019～2023年度入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論※1」[2]	
			2		「キリスト教学※2，一神教概論※3， フェリス女学院とキリスト教※4」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学 （履修コースによる）		①22		①英語インテンシブ・コース選択者	32
			②20		②2か国語履修コース選択者	
学科専門	選択必修	Ⅰ	2	合計 44	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ－A	12		〈各研究入門〉	なし
		Ⅱ－B	6		〈高度な英語科目、「英米文化専門講読」〉	なし
		Ⅲ	20			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	選択				「海外短期研修※5」	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		語学の履修コースによる： ①44 ②46		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、英語英米文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ，Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」
※5　2025年度以降は「英語科目」で開講

〈履修関連事項〉
・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。
・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.94「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。
・編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.182～183を参照してください。

カリキュラムの説明

英語英米文学科では、イギリスとアメリカなど英語圏について、また英語という言語そのものについて、あらゆることがらを学ぶことができます。

・専門科目各部門 （カリキュラム・マップを参照してください）

英語英米文学科の専門科目は、以下の六部門に分かれています。

（1）みずから調査・研究をする力を養う科目（少人数クラスによる演習）
（2）イギリス・アメリカなど英語圏の政治、歴史、思想、宗教に関する科目
（3）イギリス・アメリカなど英語圏の文学、視覚芸術、映画に関する科目
（4）英語の歴史や構造を扱う英語学系の科目
（5）高度な英語運用能力および深い思考を養う科目
（6）イギリス・アメリカ・カナダでおこなわれる現地実習科目

（1）の演習科目は、各学年に設置されています。1年前期の演習科目は「R&R（入門ゼミ）」（必修）です。（“R&R” とは “Research & Report” の略です。）この科目で、大学における学習・調査・研究の基礎――学術資料の探しかた、発表資料（レジュメ）の作りかた、小論文（いわゆる「レポート」）や論文の書きかた、など――を学びます。また、1-2年次には、この「R&R」担当教員が「アカデミック・アドバイザー」（AA）として、みなさんの相談を受け、必要なアドバイスをします。

1年後期の演習科目は「英米文化基礎ゼミ」（必修）、2年前期の演習科目は「英米文化発展ゼミ」です。それぞれ、関心のあるクラスをみずから選び、各専門分野の調査・研究の基礎を学びます。

3年次の演習科目は「英米文化専門ゼミ」（必修）です。1-2年次の演習科目よりもさらに少人数のクラス（ゼミ）に分かれ、担当教員の指導を受けながら、各自特に関心のある分野・テーマについての調査・研究をおこないます。4年次の演習科目は「英米文化卒論ゼミ」（必修）です。3年次のゼミから継続して研究してきた成果を「卒業論文」（必修）にまとめる作業をします。

（2）－（4）各領域については、特に1-2年次にさまざまな科目を履修して関心を広げるともに、少しずつ自分の専門とする分野・テーマを選んでいってください。（5）については、「英語インテンシブ」あるいは「2か国語履修」という共通語学コースの各科目に加えて履修することにより、さらに高度な英語運用能力を修得してください。

（6）は、休暇期間中に実施される科目で、イギリス・アメリカの社会・文化に直接ふれることを目的とする「Field Study」と、イギリス・アメリカ・カナダで短期語学研修をおこなう「Summer Abroad」、「Spring Abroad」があります。本学の「認定・交換留学」制度による留学や、留学プログラム「セメスター・アブロード」への準備などとして、ぜひ履修してください。

卒業に必要な単位数

日本語日本文学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2024年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論」[2]	
			2		「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学（履修コースによる）		①10		①スタンダード・コース選択者	32
			②16		②２か国語履修コース選択者	
			③22		③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	選択必修	Ⅰ	2	合計 37	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ－Ａ	12		〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ－Ｂ	3		〈基礎科目群、「基礎論文演習」〉	なし
		Ⅱ－Ｃ	2		「プレ専門ゼミ1～9」[各2]	4
		Ⅲ	14			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ／Ⅱ－Ａ		語学の履修コースによる：①63 ②57 ③51		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

2019～2023年度入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論※1」[2]	
			2		「キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学（履修コースによる）		①10		①スタンダード・コース選択者	32
			②16		②２か国語履修コース選択者	
			③22		③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	選択必修	Ⅰ	2	合計 37	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ－Ａ	12		〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ－Ｂ	3		〈基礎科目群、「基礎論文演習」〉	なし
		Ⅱ－Ｃ	2		「プレ専門ゼミ1～9」[各2]	4
		Ⅲ	14			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ／Ⅱ－Ａ		語学の履修コースによる：①63 ②57 ③51		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ，Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」

〈履修関連事項〉
・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。
・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.94「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。
・編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.182～183を参照してください。

カリキュラムの説明

日本語日本文学科のカリキュラムは、日本語学・日本文学を柱として組み立てられています。日本語学は、日本語学と日本語教育学に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学・漢文学に専門・細分化されます。その授業科目は、
・少人数の演習形式の科目
・専門を学んでいくための基礎力を養成する科目
・各専門分野の学問体系に沿った科目
・分野を横断した学修や実習によって視野を広げる科目
から構成されています。これらを段階的に（カリキュラムマップのレベル1から順に）履修することにより、日本語日本文学に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができます。

学科専門科目のいくつかは、同時に教職課程（国語）や日本語教員養成講座の必修科目でもあります（学生要覧別冊の当該ページ参照）。

●4年間の履修の指針

【1年次】に履修が指定されている科目は選択必修Ⅰ群の「R&R（入門ゼミ）」と「日本語日本文学基礎ゼミ」です。前期の「R&R」は Research & Report の略で、学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなど、大学ならではの研究方法を全員が身につけられるようトレーニングをします。このクラスの担当教員が、原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー（AA）」としてみなさん方に種々のアドバイスを行います。後期の「日本語日本文学基礎ゼミ」は、学科の各専門分野における研究の初歩を学ぶ科目で、前期の終わりに希望調査を行った上でクラス分けをします。これら2つの演習により、日本語日本文学科で調査・研究発表をしていくための実践的な基礎力を身に付けます。

同時に、1,2年次には選択必修Ⅱ－A 群の〈概論・文学史〉の講義科目を履修することによって、各専門分野の全体的知識を学びます。幅広く学ぶことが大切な時期です。

また、選択必修Ⅱ－B 群〈日本語日本文学の基礎〉の科目群は、専門分野の理解を助ける基礎的な知識をつけるためのものです。1,2年次のうちにできるだけ多くの科目を履修するようにしてください。なかでも「基礎論文演習（文章表現）」は、専門分野についてのレポートや卒業論文を書いていくために必ず必要となる技能を養成するための科目ですので、1年次の後期にクラス分けをして全員が履修します。

【2年次】選択必修Ⅱ－C 群の「日本語日本文学プレ専門ゼミ」は「基礎ゼミ」同様、前後期とも希望調査を行った上でクラス分けを行う演習科目で、週2回の授業により一気に実践力を高め、3年次の「専門ゼミ」につなげます。2年次以降は選択必修Ⅲ群の科目が多く履修できるようになります。講義内容や研究方法論の専門性が増し、調査・整理・分析・発表という主体的な受講が求められるものもあります。また、それらゼミに直結する専門的な科目の他に、日本文化に関する視野を広げる科目も開かれています。これらの科目を選択することで、専門についてもより深い探究、より広い展望を獲得できます。2年次の12月までには「ゼミ分け」が完了し、進むべき専門の分野が決まります。

【3年次】は選択必修Ⅳ群の「日本語日本文学専門ゼミ」を履修し、各自の研究テーマを本格的に学ぶことになります。さらに、【4年次】には同じⅣ群の「日本語日本文学卒論ゼミ」を履修し、卒業論文作成に向けて研鑽を積むことになります。卒業論文のテーマは、平生の履修の中で常に考え、早めに見つけるよう心がけてください。

卒業に必要な単位数

コミュニケーション学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2024年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論」[2]	
			2		「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学 （履修コースによる）		①10		①スタンダード・コース選択者	32
			②16		②2か国語履修コース選択者	
			③22		③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	選択必修	Ⅰ	2	合計 36	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ	12		〈各分野概論、研究方法〉	なし
		Ⅲ	18			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1,1] 「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1,1]	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		語学の履修コースによる： ①64 ②58 ③52		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

2019～2023年度入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論※1」[2]	
			2		「キリスト教学※2，一神教概論※3， フェリス女学院とキリスト教※4」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学 （履修コースによる）		①10		①スタンダード・コース選択者	32
			②16		②2か国語履修コース選択者	
			③22		③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	選択必修	Ⅰ	2	合計 36	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ	12		〈各分野概論、研究方法〉	なし
		Ⅲ	18			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1,1] 「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1,1]	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－A		語学の履修コースによる： ①64 ②58 ③52		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ，Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」

〈履修関連事項〉
・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。
・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.94「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。
・編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.182～183を参照してください。

カリキュラムの説明

コミュニケーション学科の目ざすもの

コミュニケーション学科は、みなさん方が21世紀の多文化・共生時代を生きるため、多様化する社会や人間、文化などを総合的にとらえた上で、社会関係をスムーズにし、対人スキルを身につけ、豊かな表現能力が獲得できるよう、現状把握・調査・分析・理論、そして実習・実践などを重視する学科として2004年度に開設されました。

人は、動物とは異なり一人では生きてゆけず、「社会」を構成してしか生きられません。その際、人は「ことば」で思考し、書きことば・話しことば・しぐさ・音・画像などの記号を駆使し、情報の乗り物であるメディアという道具を用いて自己表現や他者とのコミュニケーションを行っています。その繁雑さと「個」というエゴのため、ときとして人間は他の動物よりもはるかに非合理的な争いを生じさせもし、身近なところでは誤解や「いじめ」、他者の人権や生命の侵害、グローバルにみれば差別や貧困、大量殺戮や戦争などの悲しくかつ憂慮すべき事態を繰り返してきました。人間がもっと賢くなり、「憎しみ」の連鎖を断ち切り、多様な人びとと平和的に暮らせるようになる世界を構築するためには、私たち全員がもっともっと人間の心や社会のシステム、様ざまな文化、表現のしかたなどについて学び、むしろ「違い」を楽しむような実践が求められます。そのときのキーワードが「コミュニケーション」にほかなりません。

カリキュラムの構成

本学のコミュニケーション学科は、以上のような問題意識の上に立って、カリキュラム構成に他大の同じような学科にはない数多くの特徴をそなえています。

まずカリキュラムの構造（pp.168～169のカリキュラムマップ参照）ですが、(1) 入学したての大学生としてトレーニングを少人数のゼミで積む 基礎を学ぶ、(2) コミュニケーション研究の入門編として 全体像を知る、(3) 実証的研究方法編としての 研究方法に取り組む、(4) 各論の基礎編である コミュニケーションの基礎を学ぶ、そして (5) 各論の専門科目である 多文化理解・共生コミュニケーション・表現とメディア の3領域からなる 専門と出会う が、階梯性をもって配置され、(1) 専門を深める 科目として、2年次生全員が履修しなければならない、ゼミ風のコミュニケーション学探求も用意されています。また (6) コミュニケーション研究の解釈実践ともいえる 現代文化を読み解く が加わり、最後に卒業論文・卒業制作に結実するゼミナールとしての 専門を深める 専門を極める （(1) 参照）でしめくくられるよう組み立てられています。

カリキュラムのハイライトである (5) は、さらにそれぞれ 知と出会う と フィールドへ出る とで構成されており、前者は主として現状や先行研究について理論的に学び、後者は主として学内外でのワークショップや実習によって実践的に学びます。

編入学者の卒業に必要な単位数

編入学者の卒業の条件は次のとおりです。学科、編入学年及び入学年度によってカリキュラム及び条件が異なりますので、自分が該当する1つの表だけを確認して下さい。科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に記載されています。

2年次編入学者	編入学後3年の間に以下の表に定める科目・単位を含む94単位を修得すること。
3年次編入学者	編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得すること。

日本語日本文学科　2年次編入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4		「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2] ※2025年度入学者は、「キリスト教概論，キリスト教学」[2]のみ対象	なし
		上記以外	2			なし
	語学		6			32
学科専門	選択必修	Ⅰ	―	合計35		
		Ⅱ－Ａ	12		〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ－Ｂ	3		〈基礎科目群、「基礎論文演習」〉	なし
		Ⅱ－Ｃ	2		「プレ専門ゼミ1～9」[2]	4
		Ⅲ	14			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		41		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			94			

英語英米文学科　3年次編入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2] ※2026年度入学者は、「キリスト教概論，キリスト教学」[2]のみ対象	なし
		上記以外	―		なし
	語学		―		32
学科専門	選択必修	Ⅰ	―		
		Ⅱ－Ａ	―		なし
		Ⅱ－Ｂ	6	〈高度な英語科目、「英米文化専門講読」〉	なし
		Ⅲ	―		なし
		Ⅳ	4	「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	選択			「海外短期研修※5」	
	卒業論文		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		42	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、英語英米文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			62		

日本語日本文学科　3年次編入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2] ※2026年度入学者は、「キリスト教概論，キリスト教学」[2]のみ対象	なし
		上記以外	—		なし
	語学		—		32
学科専門	選択必修	Ⅰ	—		
		Ⅱ－Ａ	4	〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ－Ｂ	—		なし
		Ⅱ－Ｃ	—		なし
		Ⅲ	8		なし
		Ⅳ	4	「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	卒業論文		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		36	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			62		

コミュニケーション学科　3年次編入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2] ※2026年度入学者は、「キリスト教概論，キリスト教学」[2]のみ対象	なし
		上記以外	—		なし
	語学		—		32
学科専門	選択必修	Ⅰ	—		
		Ⅱ	—		なし
		Ⅲ	—		なし
		Ⅳ	4	「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1, 1] 「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1, 1]	4
	卒業論文		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		48	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			62		

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です。(p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照)

・3年次編入学者のみ「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。(p.54「キリスト教関連科目」参照)

※１　2023 年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※２　2023 年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ，Ⅲ」
※３　2023 年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※４　2023 年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」
※５　2025 年度以降は「英語科目」で開講

卒業に必要な単位数

国際交流学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2024年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2	「キリスト教概論」[2]	
			2	「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	4		なし
	語学 （履修コースによる）		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②16	②２か国語履修コース選択者	
			③22	③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	必修		10	「導入演習」[1]、「研究入門」[2]、「基礎演習」[3]、「専門演習」[4]	
	選択必修	基幹科目	12		なし
		所属するプログラムの推奨科目	6	合計で20単位以上	所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	なし
		所属するプログラムの科目				なし
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		語学の履修コースによる： ①58 ②52 ③46	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124		

2019年度～2023年度入学者						
科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論※1」[2]	
			2		「キリスト教学※2，一神教概論※3， フェリス女学院とキリスト教※4」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学 （履修コースによる）		①10		①スタンダード・コース選択者	32
			②16		②２か国語履修コース選択者	
			③22		③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	必修		10		「導入演習」[1]、「研究入門」[2]、「基礎演習」[3]、「専門演習」[4]	
	選択必修	基幹科目	12			なし
		所属するプログラムの推奨科目	6	合計で20単位以上	所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	なし
		所属するプログラムの科目				なし
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		語学の履修コースによる： ①58 ②52 ③46		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ，Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照)）。
・「卒業論文」に代えて、国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。アカデミック・アドバイザーと相談のうえ、所定の手続きが必要です（p.202「「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目６単位の履修方法について」参照)。
・「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合、卒業に必要な「専門演習」の単位が2単位となります。
・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（pp.94～97「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照)。
・編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.194～195を参照してください。

編入学者の卒業に必要な単位数

編入学者の卒業の条件は、次のとおりです。編入学年及び入学年度によってカリキュラム及び条件が異なりますので、自分が該当する1つの表だけを確認してください。

2年次編入学者	編入学後3年の間に以下の表に定める科目・単位を含む94単位を修得すること
3年次編入学者	編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得すること

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に記載されています。

2年次編入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2] ※2025年度入学者は、「キリスト教概論, キリスト教学」[2]のみ対象	なし
		上記以外	2		なし
	語学		6		32
学科専門	基礎演習		2		
	選択必修	基幹科目	8		なし
		所属するプログラムの推奨科目	6 合計で20単位以上	所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	なし
		所属するプログラムの科目			なし
	専門演習		4		
	卒業論文		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		42	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			94		

3年次編入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4	「キリスト教概論※1，キリスト教学※2，一神教概論※3，フェリス女学院とキリスト教※4」[2] ※2026年度入学者は、「キリスト教概論, キリスト教学」[2]のみ対象	なし
		上記以外	—		なし
	語学		—		32
学科専門	選択必修		—		なし
	専門演習		4		
	卒業論文		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		48	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			62		

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です。（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）

・3年次編入学者のみ「キリスト教概論[※1]，キリスト教学[※2]，一神教概論[※3]，フェリス女学院とキリスト教[※4]」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。（p.54「キリスト教関連科目」参照）

・「卒業論文」に代えて、国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。アカデミック・アドバイザーと相談のうえ、所定の手続きが必要です。（p.202「「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修方法について」参照）

・「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合、卒業に必要な「専門演習」の単位が2単位となります。

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ，Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」

卒業に必要な単位数

音楽芸術学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に掲載されています。

2024年度以降入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論」[2]	
			2		「キリスト教学」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学（履修コースによる）		①10 ②16 ③22		①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	32
学科専門	選択必修	1群	4	かつ合計38単位以上	1群から4単位以上	なし
		2群	2		2群から2単位以上	なし
		3群	2		3群から2単位以上	なし
		4群	2		4群から2単位以上	なし
		5群	4		5群から4単位以上	なし
		6群	6		「基礎演習」[1]、「応用演習」[1]、専門ゼミⅠ～Ⅳを各1単位、合計6単位	
	卒業プロジェクト		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		語学履修コースによる： ①62 ②56 ③50		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

2019～2023年度入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	2		「キリスト教概論※1」[2]	
			2		「キリスト教学※2、一神教概論※3、フェリス女学院とキリスト教※4」[2]	なし
		上記以外	4			なし
	語学（履修コースによる）		①10 ②16 ③22		①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	32
学科専門	選択必修	1群	4	かつ合計38単位以上	1群から4単位以上	なし
		2群	2		2群から2単位以上	なし
		3群	2		3群から2単位以上	なし
		4群	2		4群から2単位以上	なし
		5群	4		5群から4単位以上	なし
		6群	6		「基礎演習」[1]、「応用演習」[1]、専門ゼミⅠ～Ⅳを各1単位、合計6単位	
	卒業プロジェクト		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		語学履修コースによる： ①62 ②56 ③50		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			124			

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ、Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅳ」

〈履修関連事項〉

・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）。
・外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生は、この表にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（pp.94～97「外国人留学生及び外国にルーツを持つ学生の履修」参照）。
・編入学者の「卒業に必要な単位数」は p.219を参照してください。

編入学者の卒業に必要な単位数

編入学者の卒業の条件は、次のとおりです。編入学年及び入学年度によってカリキュラム及び条件が異なりますので、自分が該当する表を確認してください。

2年次編入学者	編入学後3年の間に以下の表に定める科目・単位を含む94単位を修得すること。
3年次編入学者	編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得すること。

科目区分ごとの全ての科目は開講科目表に記載されています。

2年次編入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4		キリスト教概論※1、キリスト教学※2、一神教概論※3、フェリス女学院とキリスト教※4 [2] ※2025年度入学者は、「キリスト教概論、キリスト教学」[2] のみ対象	なし
		上記以外	2			なし
	語学		6			32
学科専門	選択必修	1群	2	かつ合計35単位以上	1群から2単位以上	なし
		2群	2		2群から2単位以上	なし
		3群	2		3群から2単位以上	なし
		4群	2		4群から2単位以上	なし
		5群	4		5群から4単位以上	なし
		6群	5		「応用演習」[1]、専門ゼミⅠ～Ⅳを各1単位、合計5単位	
	卒業プロジェクト		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		41		「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			94			

3年次編入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考	卒業要件算入の上限単位数
全学共通	ＣＬＡコア	キリスト教科目	4	キリスト教概論※1、キリスト教学※2、一神教概論※3、フェリス女学院とキリスト教※4 [2] ※2026年度入学者は、「キリスト教概論、キリスト教学」[2] のみ対象	なし
		上記以外	—		なし
	語学		—		32
学科専門	選択必修	1群	—		なし
		2群	—		なし
		3群	—		なし
		4群	—		なし
		5群	—		なし
		6群	4	「専門ゼミⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」[1]	
	卒業プロジェクト		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ－Ａ		48	「教育原理」、「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」	8
	他学科専門科目など			他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合　計			62		

〈履修関連事項〉
・学期ごとの履修登録上限は24単位です。（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照）
・3年次編入学者のみ（「キリスト教概論※1、キリスト教学※2、一神教概論※3、フェリス女学院とキリスト教※4」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。（p.54「キリスト教関連科目」参照）

※1　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅰ」
※2　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ、Ⅲ」
※3　2023年度以前修得者は「キリスト教Ⅱ」
※4　2023年度以前修得者は「フェリス女学院と「キリスト教Ⅳ」

カリキュラムの説明

カリキュラムの構成及び特徴
　音楽芸術学科は多様な分野に対応して2年次から学科特有の科目を多く準備しています。それらは3年次から始まる専門ゼミの準備科目として学生が選択できるようにもなっています。そしてカリキュラム全体は学修分野に応じて7つのグループ（群）に分かれています。

第1群：音楽の基礎を学ぶ／ミュージシャンシップを養う
　音楽を学ぶ上で不可欠な基礎理論・基礎実技を学びます。
第2群：キリスト教音楽を体験する
　本学建学の理念であるキリスト教についての理解を、音楽を通して深めます。
第3群：ミュージシャンシップを高める
　第1群で養った音楽性をさらにスキルアップ。音楽家としてより高度な実践と応用の技術を身に付けます。
第4群：音楽の背景を探る
　音楽の背景を、歴史・理論などの観点から深く学ぶための科目です。
第5群：音楽と社会を実践的に体験する（アクティブ・ラーニング科目群）／社会実践コミュニケーション
　キャリア設計を視野に入れた、現代的な内容の多彩な科目から構成されます。
第6群：専門を深める―ゼミナールで社会とつながる
「基礎演習」から「応用演習」を経て「専門ゼミⅠ～Ⅳ」へとつながります。1, 2年次でアカデミック・スキルを修得し、3, 4年次はゼミに所属し専門を深めます。
　また学外での活動に取り組むことを支援する科目も開講しています。

授業科目名	内　　容	履修年次
「公開発表・公開演奏」	学内外における作品・論文・演奏の発表	2～4年次生

第7群：専門を極める
　卒業プロジェクトを仕上げます。卒業プロジェクトには「卒業論文」又は「卒業制作及び副論文」の2タイプがあります。どちらの形で発表することにしても、専門ゼミでの学びと連動して自分のプロジェクトを完成させていきます。

ＰＡ（パフォーミング・アーツ）科目群：高度な技能、表現力を修得する
　学生一人ひとりのニーズに応じ、個人実技又はグループ実技（ピアノデュオ、室内楽、バレエ、ダンス、ミュージカルなど）を自由に選択することができます。なお、PA 科目群の科目は、すべて別途実技料が発生します。

修了要件

本課程を修了するには、下記の（1）、（2）全てを満たす必要があります。

（1）在学期間
　2年以上在学すること。

（2）修得単位数等
　①　「修士論文指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
　②　修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

必修単位数については次のとおり定めます。

科目区分	単位数	備　考
選択必修Ⅰ群	4単位	
選択必修Ⅱ群	8単位	
選択必修Ⅲ群「修士論文指導」	4単位	
その他	14単位	上記以外の所属専攻専門科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位
合　計	30単位	

人文科学研究科　博士後期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の (1)、(2) 全てを満たす必要があります。

(1) 在学期間
大学院に5年以上[※1]在学すること。
※1　修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

(2) 修得単位数等
①「博士論文指導」を含む所定の授業科目を42単位[※2]以上修得すること。
②博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。
※2　修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、その課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

また、必修単位数については次のとおり定めます。

2022年度以降入学者

科目区分	必修単位数
選択必修Ⅰ群	4単位
選択必修Ⅱ群	4単位
選択必修Ⅲ群 「博士論文指導」	4単位
合　計	12単位

履修方法

各専攻所定の授業科目の履修方法

選択必修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ群から履修することとします。詳細は開講科目表の履修方法欄を参照してください。
各学期の履修科目については、履修登録までに指導教授の承認を得てください。

国際交流研究科　博士前期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の（1）、（2）を満たす必要があります。

（1）在学期間
　2年以上在学すること。長期履修学生は4年以上在学すること。

（2）修得単位数等
　①　「修士論文指導」または「修了レポート指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
　②　修士の学位申請論文（以下「修士論文」という。）または特定の課題についての研究の成果（「修了レポート」2編）の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。（長期履修学生を除く。）

必修単位数については次のとおり定めます。
また、指導教授を変更した場合、変更前に修得した単位もグローバリゼーション研究演習に該当することとします。

「修士論文」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授が担当する「研究総論」	2単位	
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授の「グローバリゼーション研究演習」	4単位	
④	指導教授が担当する「修士論文指導」	4単位	
—	その他	18単位	上記以外の国際交流専攻専門科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位
合　計		30単位	

「修了レポート」選択者

	科目区分	単位数	備考
①	指導教授が担当する「研究総論」	2単位	
②	「ジェンダー」関連科目から	2単位	
③	指導教授が担当する「修了レポート指導」	4単位	
④	「自分史の書き方・時代の見方」	2単位	
⑤	指導教授の「グローバリゼーション研究演習」	2単位	
—	その他	18単位	上記以外の国際交流専攻専門科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位
合　計		30単位	

国際交流研究科　博士後期課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の(1)、(2)全てを満たす必要があります。

（1）在学期間
大学院に5年以上[※1]在学すること。
※1　修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、その2年を含む。

（2）修得単位数等
①　「博士論文指導」を含む所定の授業科目を42単位[※2]以上修得すること。
②　博士の学位申請論文の審査及び最終試験に合格すること。
※2　修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者が、当該課程と同種の専攻の博士後期課程に入学した場合は、その専攻の授業科目のうち30単位をすでに修得したものとみなします。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

また、(2) については次のとおり定めます。

2022年度以降入学者

科目区分	必修単位数	備考
「特別研究」科目	4単位	履修する群と科目は指導教授の指示を受けてください。
指導教授の「グローバリゼーション研究特別演習」	4単位	
指導教授又は指導教員が担当する「博士論文指導」	4単位	
合　計	12単位	

音楽研究科　修士課程

修了要件

本課程を修了するには、下記の (1)、(2) 全てを満たす必要があります。

（1）在学期間
　2年以上在学すること。

（2）修得単位数等
　① 「修士研究指導」を含む所定の授業科目を30単位以上修得すること。
　② 修士研究（修士制作及び修士副論文、又は修士論文）を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りることとします（p.23参照）。

必修単位数については次のとおり定めます。

音楽芸術専攻

科目区分	単位数	備　考
選択必修Ⅰ群	4単位	
選択必修Ⅱ群	4単位	
選択必修Ⅲ群 「修士研究指導」	4単位	
その他	18単位	上記以外の音楽芸術専攻専門科目、他専攻の開放科目及び上記区分ごとの必要数以上に修得した科目の単位 ※ 「実技レッスン A,B」「特別実技レッスン A,B」の修了要件算入は、あわせて6単位を上限とする。
合　計	30単位	